

PRESIDENT'S MESSAGE

R I 会長メッセージ



親愛なるチェンジメーカーの皆さん

この2年間で、私たちは数多くの難題を解決し、多くの人々の人生に変化を与えてきました。今年度、皆さんが「Each One, Bring One (みんなが一人を入会させよう)」イニシアチブを通してロータリーの成長に全力を尽くしてくださっていることを、私は心からうれしく思っております。おかげで会員数は大きく伸びました。この勢いを維持していきましょう。

2020年3月11日に世界保健機関が新型コロナウイルスのパンデミックを宣言してから2年がたちます。疾病予防と治療というロータリーの専門知識を活用し、パンデミックに苦しむ人々の支援を今後も続けていくことが肝要です。新型コロナは私たちの想定を超え続けていますが、恐れをなして立ち止まってはなりません。ロータリーの活動は大変重要なのです。また私たち自身の時間を持つことも大事です。ヒューストンで開催される2022年ロータリー国際大会にぜひご参加ください。

ロータリーは、リソースを活用して恵まれない人々を支援し、これからも希望と平和をもたらし続けます。新型コロナで特に大きな影響を受けているのは、女兒です。パンデミック宣言から1年となる日に、ユニセフ（国連児童基金）事務局長のヘンリエッタ・フォアさんは「女兒とその家族の被害軽減は喫緊の課題」だと語っています。しかし、それから1年たってもこの問題は依然として解決されていません。パンデミックは学業不振、雇用率の低下、それに児童婚や人身売買の増加など、女兒たちに悪影響を及ぼし続けています。

ユニセフのデータは、対策の必要性を如実に物語っています。2010年代には児童婚の撲滅に向けて大きな進捗が見られ、全世界で2,500万件の児童婚が回避されたと推定されています。残念ながら新型コロナによりせっかくの成果もむなしく事態は後退し、児童婚のリスクがある女兒の数が1,000万人も増えてしまうという結果になってし

まいました。

だからこそ、女兒のエンパワメントは非常に重要な活動なのです。うれしいことにジェニファー・ジョーンズ会長エレクトがこのイニシアチブを継続することを明言しました。世界中で、数多くのクラブが女兒のエンパワメントの目標達成を支える素晴らしいプロジェクトを実施しているのを見聞きしています。しかし、本当の変化には何年にもわたる尽力が必要であることは、ロータリーの会員なら誰でも知っているところです。そこで、ロータリーの重点分野に沿った行動とグローバル補助金が重要な意味を持つてくるのです。

女兒のエンパワメントに関する補助金プロジェクトを計画する際には、ぜひ画期的な取り組みを検討してください。女兒の教育、医療、経済的機会を向上させるために手を打てば、女兒が持てる力を発揮する際の大きな後押しをすることになります。機会があれば希望が生まれ、希望が生まれれば世界中の紛争の根本原因に対処でき、持続可能な平和の土台が築けます。

新型コロナの流行があと何年続くかは誰にも分かりません。今後直面する困難については、ポリオ根絶に向けて何十年も根気強く活動してきた団体として、他の誰よりもよく理解しています。だからこそ、先を見据えて、何が可能かということ、つまり、かつての生活様式を懐かしむだけではなく、このパンデミックを「みんなの人生を豊かにするために奉仕する」チャンスとして生かす未来を、心待ちにするべきなのです。この素晴らしい活動を皆さんと今後も続けられることを光榮に思います。

シェカール・メータ

2021-22年度 国際ロータリー (R I) 会長